

平成 28 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査  
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

平成28年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育を充実させるための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

### 2 実施日、調査教科

平成28年3月3日（木）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約12分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

### 3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員4,552人（男子2,354人／女子2,198人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は、458人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たってはすべての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

## II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、それらを活用する力を検査することができるように出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し、思考力、判断力、表現力を検査することができるように工夫すること。
- ④ 全県的な視野にたって出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

### 2 得点別に見た度数分布

総合得点の平均点は250.5点で、前年度より15.5点低かった。最高点は473点、最低点は38点であり、その得点分布は（図1-1 P13）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較すると、男子は249.0点（前年度比-16.6点）、女子は252.0点（前年度比-14.5点）で、女子が男子より3.0点高い。その得点分布は（図1-2 P13）に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成24年度から今年度入試まで5年間の全体平均は（図1-3 P19）のように推移している。

#### 4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P21）

##### ㊦ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き・漢文の訓読に関する知識）

一、二では、学校生活や身近な社会生活に関わる短文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書き取りを出題した。新常用漢字については、文部科学省通知による出題に際しての配慮事項等を受けて、音読みと訓読みとを1字ずつ出題した。日常生活の場面で使われる漢字についてはよくできているが、書き取りを中心に、問題によっては正答率に大きな差が見られ、体験的に語彙を獲得するとともに、実際に手書きをする習慣の必要性が感じられる。読書体験をはじめとして活字文化に触れたり、豊かな人間関係に支えられた様々な体験を通じて使える語彙を増やしたりしながら、繰り返し学習したい。

三は、漢文の訓読の仕方を知り、漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れることができるかを問う問題を、漢詩の一節を取り上げ、書き下し文を書く形で設定した。昨年度、9年ぶりに漢文の出題をしたところ、基本的な学習内容の定着に課題が見られたこともあり、継続しての出題とした。正答率は69.9%であり、高校進学後の古典学習に向けて、一定の理解がなされていることがうかがえた。

##### ㊧ 話すこと・聞くこと

一は、聞き手を引きつける話の構成の工夫について、全体と部分の関係に注意して考える問題とした。具体的には、小泉さんの発表の良い点について助言する場面を設定した。聞き手に話題を投げかけるとともに、紹介したい本の内容と、話し手の身近な体験とを関連づけて発表の導入としたことで、聞き手に分かりやすい構成になっている。正答率は86.2%であった。

二は、聞き手に分かりやすい話の選択について考える問題とした。文の成分の呼応により意味が曖昧になってしまう表現を、伝えたい内容に合わせて適切に置き換えることができるかを問うた。正答率は53.7%であり、日常の言語活動を振り返り、言語感覚を磨くことの必要性が感じられる。

三は、話の論理的な構成や展開に注意することができるかについて、聞き手が注意して聞き、自分の考えを助言として述べるという形で問うた。話し手には理解されていることでも、聞き手にとっては初めての情報であることも想定し、必要な情報を補いながら適切に伝えることについて考える必要がある。正答率は38.6%であり、条件に従って考えをまとめて表現することに課題が見られた。

##### ㊨ 古典（古文） 出典 『今昔物語集』（小学館 新編日本古典文学全集）

一は、歴史的仮名遣いの読み方に関する問題である。正答率は88.4%であり、語頭以外のハ行がワ行となるという原則については、理解されている。

二は、与えられている現代語訳を活用しながら、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができるかについて、指示語の指示内容を問う形で設定した。正答率は71.0%であった。

三は、時間の経過による言葉の変化を理解することができるかを問うた。言葉は、時間の経過により語形や語意などが変化していくという側面をもっている。言葉のもつこのような性質に気づくことで、自分たちが使っている言葉に対する興味・関心を喚起するとともに、理解や認識を深めるようにすることが大切である。正答率は60%を切っており、我が国の歴史の中で創造され、継承され、実際の生活で使用されることで形成されてきた文化的な言語生活について実感させる指導の必要性が感じられる。

四は、登場人物の言動の意味を考え、内容の理解を深めるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像することができるかを、和歌に込められた思いを述べる形で問うた。正答率は46.9%であった。現代語訳等で示されている情報を活用して中心的な部分を把握し、必要に応じて要約するといった記述型への対応に課題が見られた。

##### ㊩ 文学的文章 出典 『うたうとは小さいのちひろいあげ』 村上しいこ（講談社）

一は、現在進行している内容の中に、主人公が回想している部分が挟み込まれていることを確認

## 5 全体を通しての考察

国語全体としては、無答数も少ないことから、国語への興味・関心の高さがうかがえた。

古典については、伝統的な言語文化への興味・関心を高め、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、自分の考えを形成していくためにも、現代の生活にも密接に関連している身近な話題を取り上げることで、伝統や文化が生きたものとして脈々と受け継がれていることの価値について考えさせていきたい。語彙は豊かになるにつれて、語句と語句との意味の違いが微妙なところまでつかめるようになり、語感が磨かれると、一つ一つの語句について、他の語句に置き換えられたり置き換えられなかったりすることに気づくようになる。そのことを、書くときや話すときに役立てられるようにしていくためにも、読書経験をはじめとして、様々な体験を通じて、実際に使える語彙を増やしていく必要がある。

また、ここ数年の傾向として、文章の展開や表現に留意して内容を読み取ること、全体と部分との関係を確認しながら、根拠をもって判断すること、文脈を踏まえながら、表現に込められた筆者の意図を読み取ることによって課題が見られる。条件に基づき、自分の考えをまとめて表現する記述式の出題形式は依然として正答率が低くなる傾向にある。文章全体を丁寧に読み、根拠を明確にしながら自分の考えを深めてまとめる力や、文章全体の構成を把握して内容理解につなげる力をつけるためにも、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもち、それを述べたり、文章を読み比べながら評価したりするといった言語活動を通して、思考力、判断力、表現力の育成を図るとともに、日常の言語活動を振り返りながら言語感覚を磨いていくことが望まれる。

## 〇 社 会

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また、多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

### 2 得点別に見た度数分布

平均点は46.5点で、前年度(57.8点)より11.3点低かった。最高点は96点、最低点は0点であった。得点分布は(図3-1 P15)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は47.2点、女子は45.7点で、男子が1.5点高かった。その得点分布は(図3-2 P15)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成24年度から今年度までの5年間の社会科の平均点は(図3-3 P19)のように推移している。今年度は過去5年間で一番低い平均点となった。問題の難易度は例年並みだが、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮する一方、自分の言葉で表現する問題や、複数の図やグラフなどの資料を関連づけて読み解く技能を検査する問題を増やしたことが得点低下につながった。また、男女別比較で見ると、男子が女子を上回る傾向が続いている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

#### 1 地理的分野

1の世界の地理に関する問題では、第二次大戦後に夏季オリンピックを開催したことがない州を世界の六つの州の中から答える問題で正答率が高かった。一方、時事的な問題に関心をもち西アジアの地図を見てアフガニスタンの位置を特定する問題では正答率が27.9%であった。また、(3)の南米の開発と環境問題に関する理解を基に複数の資料から考えられることを記述する問題は正答率が46.9%であった。地理学習の基本となる世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連づけて世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること

## ○ 数 学

### 1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、関数、資料の活用の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や、数学的に表現し処理する能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する力が検査できるようにした。
- ② 知識や技能を活用して、問題を解決する力が検査できるようにした。
- ③ 複数の領域にわたって、総合的に考える力が検査できるようにした。
- ④ 思考過程や根拠などを論理的に説明できる力が検査できるようにした。

### 2 得点別に見た人数分布

平均点は55.8点で、昨年より8.5点高い。最高点は95点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 P16)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子56.3点、女子55.3点で男子が1.0点高い。ここ数年男子が女子より2点前後高い状況が続いているが、今年は、男子の方が女子より高い状況は続いているものの差は縮まっている結果となった。その得点分布は(図4-2 P16)に示すとおりであり、31~70点では女子の構成比が、71点以上では男子の構成比が、それぞれ高くなっている状況である。

### 3 平均点の推移

平成24年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P20)のように推移している。ここ数年、数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題、理由を記述する問題を取り入れてきた結果、全体の平均点は50点前後を推移してきている。今年は、平均点が55点を上回ったが、説明や証明などの記述の問題を増やし、大問の4までに標準的な問題を設定したことが影響した部分もあるものと考えられる。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P22)

#### ① 「数と式の四則」

基礎的・基本的な数式の処理をねらいに出題した。全体的に高い正答率であり、文字式の計算などの基本的な計算処理は十分定着していると考えられるが、分数の約分や文字式の割り算を含んだ計算の問題では、正答率が90%を下回り、更には平方根を含んだ計算の順序を問う基本的な計算では、正答率が80%を下回り、課題の残る結果となった。

#### ② 「基礎的事項」

基礎的な知識に基づく表現や処理をねらいに、2次方程式、確率、比例のグラフ上の点、二等辺三角形の頂角、作図に関する問題を出題した。2次方程式の解法、二等辺三角形の頂角、最短距離となる作図については、まずまずの結果となった。その一方で、さいころを題材とした基本的な確率や比例のグラフ上の点を選ぶ問題では、正答率が80%を下回り、分野によっては基本的な内容の定着に課題が残る結果となった。

#### ③ 「関数」

身近な事象において、数式を用いて数値を求めたり、一般的な事象の説明をしたり、与えられた関数の式を用いて問題を解決したりすることをねらいに出題した。全体的にはまずまずの結果であったが、理由を説明する問題の正答率は12.4%、部分正答は57.9%であり、説明に必要な事柄を正確に記述するという点で課題の残る結果となった。

#### ④ 「資料の活用」

身近な事象の統計に関して、全数調査および標本調査の結果をもとに、基礎的な内容と適切な処理により資料の傾向を読みとることをねらいに出題した。「階級の幅」や「標本の大きさ」を答え

男女別の平均点を比較すると、男子は44.9点、女子は43.4点で、男子が女子を1.5点上回った。男女別の得点分布は(図5-2 P17)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成24年度から今年度までの5年間の全体平均点は(図5-3 P20)のように推移している。平成24年度、平成26年度は40点台、平成25年度、昨年度は50点台であったが、今年度は5年間で最も低い平均点となった。選択問題が減り、思考力を問う計算問題が増えたため、また、論述問題の正答率が低かったためと考えられる。男女別比較でみると、毎年男子が女子を上回っている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P22)

#### ① 「人の体のつくりと働き」

消化酵素について、小腸で体内に吸収されたブドウ糖が最も多くふくまれる血液が流れる血管について、また、「静脈」、「心臓内の血液の流れ」について、正しく理解しているかを確認した。さらに、細胞の中で養分は、酸素を使って、水と二酸化炭素に分解されるときにエネルギーがとり出されることを正しく理解し、論述により表現できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かったが、論述問題は正答率が23.6%と低く、課題が見られた。

#### ② 「火山活動と火成岩」

花こう岩に含まれている鉱物の割合について正しく理解しているか、玄武岩の色が安山岩よりも黒っぽい色になっている理由を論述により表現できるかを確認した。また、セキエイの色や特徴について、さらに石基、斑状組織、等粒状組織について、正しく理解しているかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かった。内容の定着が図られていると考えられる。

#### ③ 「圧力」

水槽Aと水槽Bの質量と底面積から圧力の大きさを計算によって求めることができるか、水の深さのちがいにより水圧が異なることについて正しく理解しているかを確認した。また、浮力のはたらく理由を論述により表現できるか、水の深さと浮力との関係を正しく理解しているかを確認した。全体的に正答率は低く、その中でも、水槽が床をおす圧力を計算で求める問題の正答率は7.4%及び9.2%と他と比べ非常に低かった。論述問題は無答率が14.4%と高く、課題が見られた。

#### ④ 「酸・アルカリとイオン」

青色リトマス紙上の赤色のしみの変化を正しく判断し、その理由をイオンに着目して論述により表現できるかを確認した。また、水溶液のpHの値を正しく理解しているか、水酸化ナトリウムが電離している様子を電離式で正しく表現できるか、中和する時の水酸化ナトリウム水溶液の量と水酸化イオン数との関係について、正しく理解しているかを確認した。さらに、質量パーセント濃度10%の塩酸を3%にうすめるときの原液と加える水の質量を計算によって求めることができるかを確認した。全体的に正答率はやや低く、その中でも濃度の計算問題の正答率は7.9%と低かった。無答率も他と比べ32.8%と高く、課題が見られた。

#### ⑤ 「日本の気象」

天気図からP点の気圧の大きさを正しく読みとることができるか、4月の天気短い周期で変わる理由を論述により表現できるかを確認した。また、夏のユーラシア大陸上の気圧と太平洋上の気圧について、夏の季節風について、正しく理解しているかを確認した。さらに、冬の天気の特徴について、誤っている文を選び、正しく書き直すことができるかを確認した。全体的に正答率はやや高かったが、4月の天気短い周期で変わる理由を求めた論述問題の正答率は33.6%と他と比べ低く、課題が見られた。

査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点に当たっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

## 2 得点別に見た度数分布

平均点は45.9点で、前年より6.8点下がった。最高点は100点、最低点は2点で、その分布は(図6-1 P18)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は44.4点、女子は47.6点で、女子が男子を3.2点上回った。男女別の得点分布は(図6-2 P18)に示すとおりである。

## 3 平均点の推移

平成24年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P20)のように推移している。

今年度の平均点は昨年度を下回った。大問1～3は主に「聞くこと」に関する力を検査しているが、今年度も大問3に、日本語ではなく英語を記述する「書くこと」も重視した出題をした。選択問題である大問1と2については昨年同様に平均点は高く、受験生に一定の「聞く力」が養われていることがうかがわれる。しかしながら、「聞いて書く」ことを求めた大問3については正答率が低く、「書くこと」についての力を「聞くこと」と併せて育成することが求められる。大問4及び5の英文については、語数を昨年度より増やし、1000語程度にしなが、まとまった英文を限られた時間内に的確に理解する力を検査できるようにした。「読むこと」に関する力と「書くこと」に関する力をより一層、総合的に育成していくことが求められる。

また、男女別比較で見ると、昨年同様、女子が男子を上回っており、その差も3.2点と昨年の3.6点とほぼ同様である。

## 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P23)

### 1 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」に係る問題

短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題で、様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価したりできるようにした。平均正答率は、75.7%と昨年度の79.4%をやや下回った。

### 2 「聞くこと」「読むこと」に係る問題

初対面の外国人との会話の進め方についての英文を聞いて、内容に関する質問に答える問題。テーマや文脈を理解した上で、内容に関する質問を聞き取り、適切な答えを選択できるかを試している。平均正答率は72.9%と昨年度の78.9%をやや下回った。特に本英文の趣旨にかかわる問2で正答率が57.9%と差がついた。

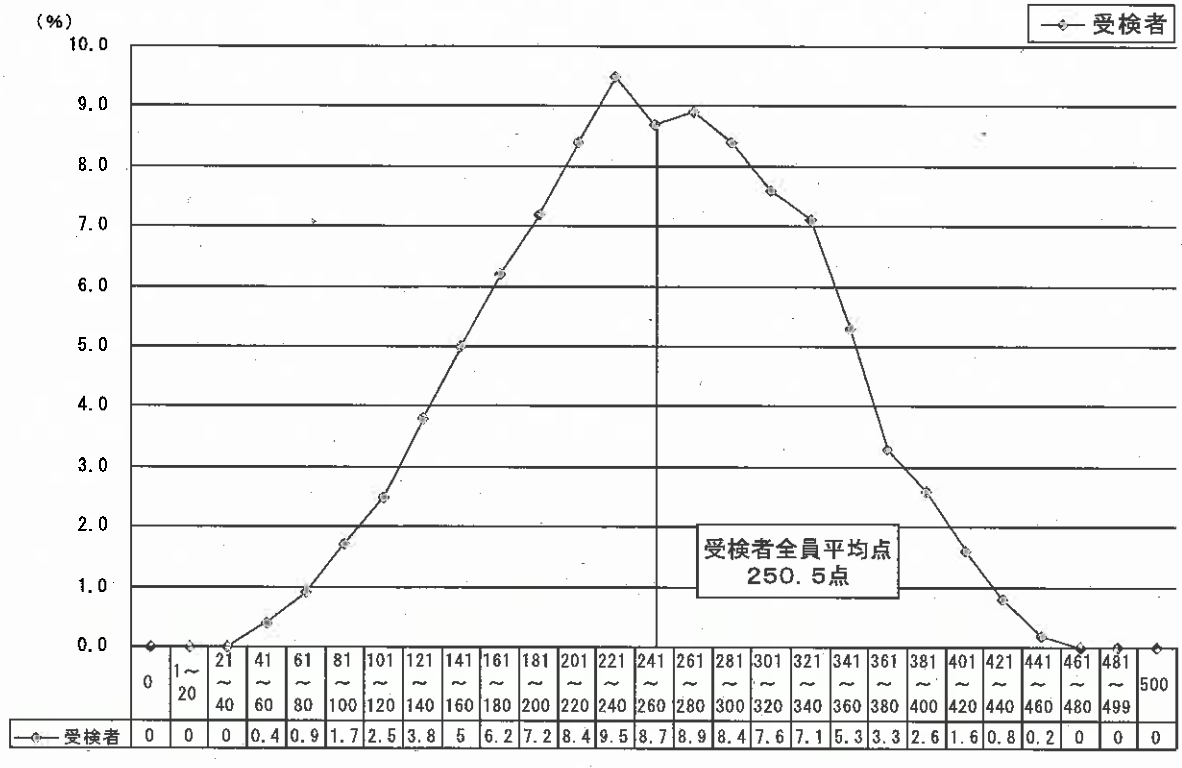
### 3 「聞くこと」「書くこと」に係る問題

英文を聞き取り、英語のメモを完成させる問題。英文を聞き取った上で、解答に必要な情報を選び出しそれを書く力を試す問題である。カナダからの留学生によるカナダの学校生活についての英文を聞き、「聞くこと」と「書くこと」の2つの能力を検査できるようにした。平均正答率48.7%と、昨年の41.6%をやや上回った。複数の技能を統合する力は今後も課題であると思われる。

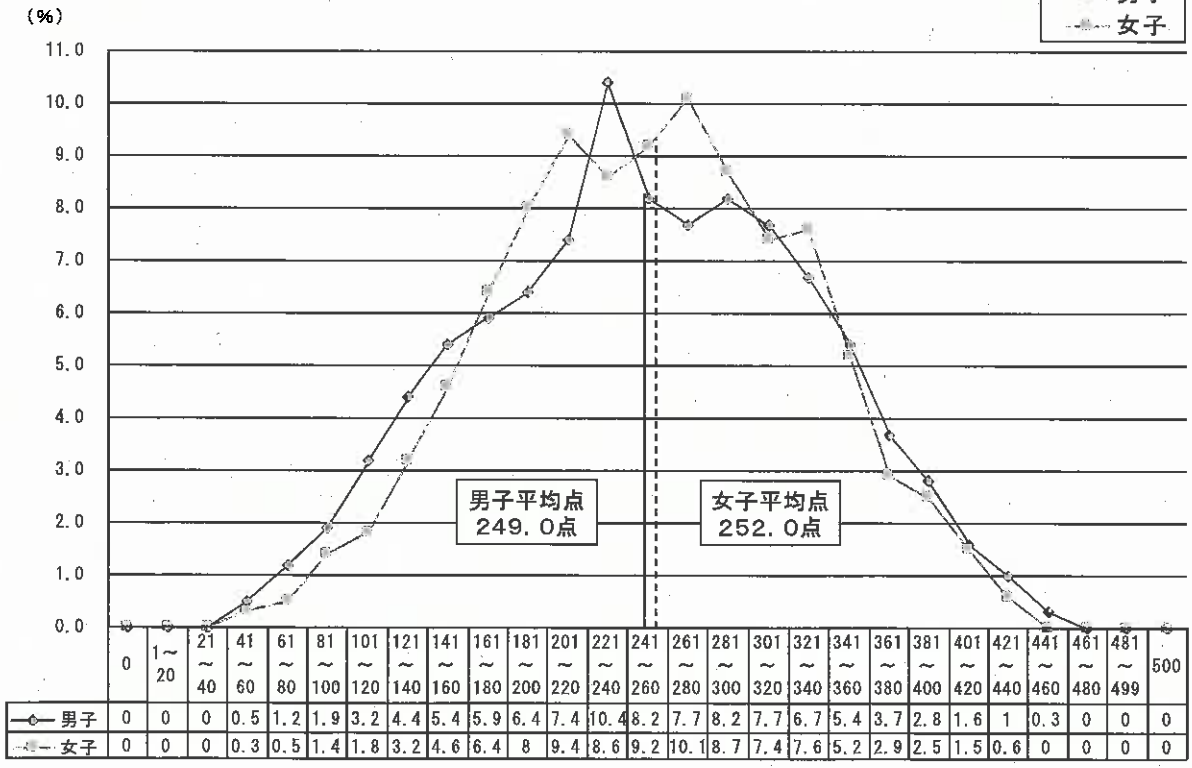
### 4 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の正夫が、外国語指導助手のBrown先生に“re-”や“-less”などの語が持つ意味や使い方についてたずねる場面である。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料(単語、文法等)について知識、文脈を把握した上で読解したり、表現したりする能力、英語を言い換えて表現する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力等を検査できるようにした。単語の空欄補充問題では、文脈を読み取った上で知識を活用できるようにした。また、英文の空欄補充問題では本文の文脈に合わせて適切なものを補充させる形式にするなど、様々な観点から読解力を検査できるようにした。また、英語で表現する基本的な能力を検査できるようにした。

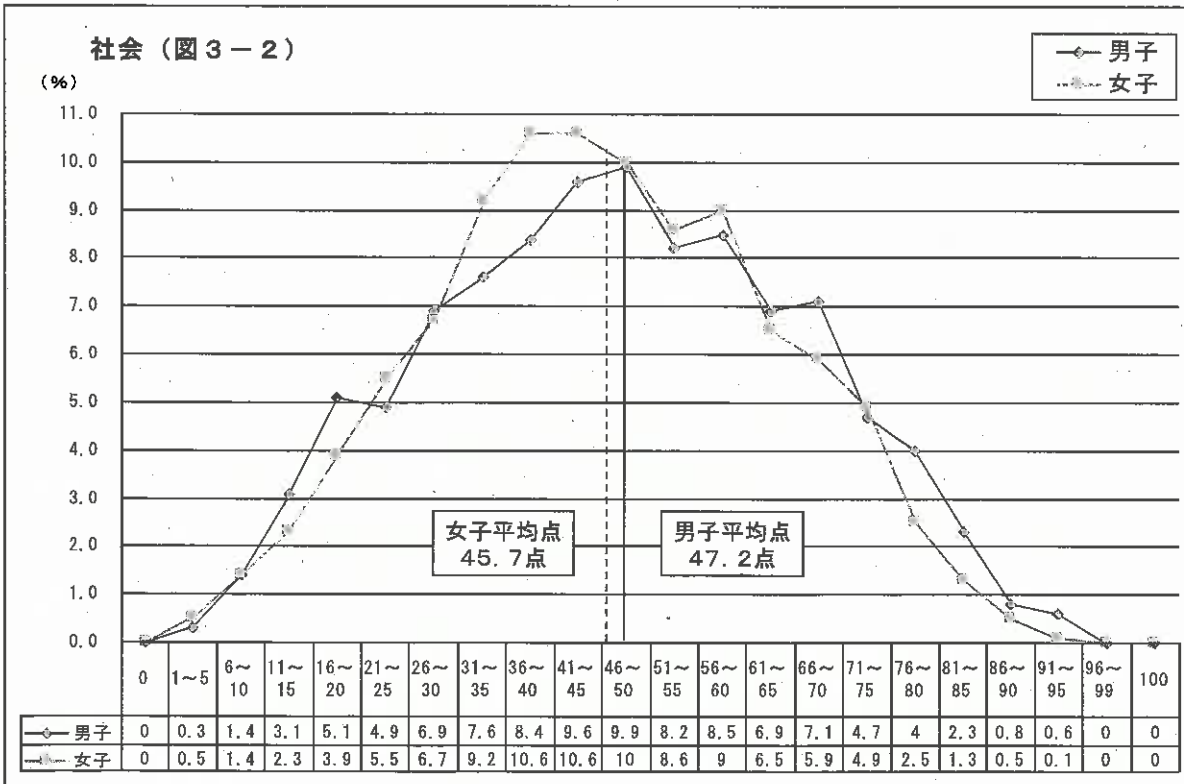
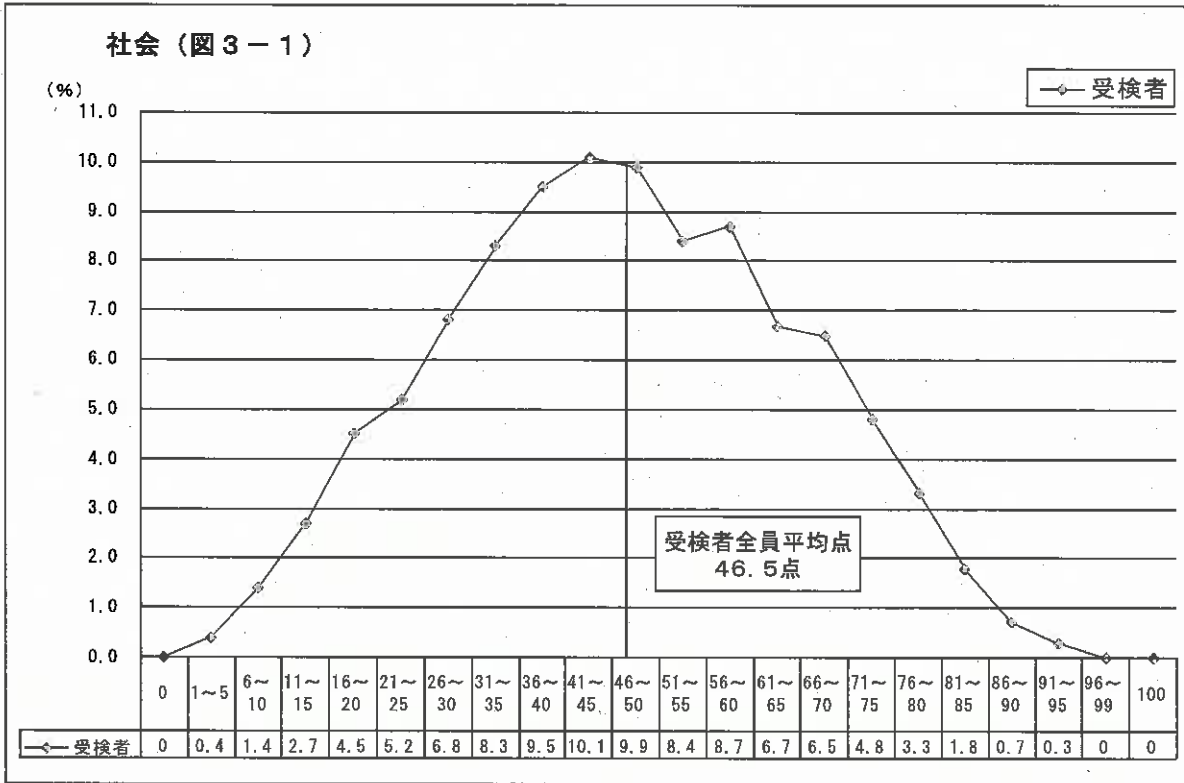
総合得点 (図1-1)

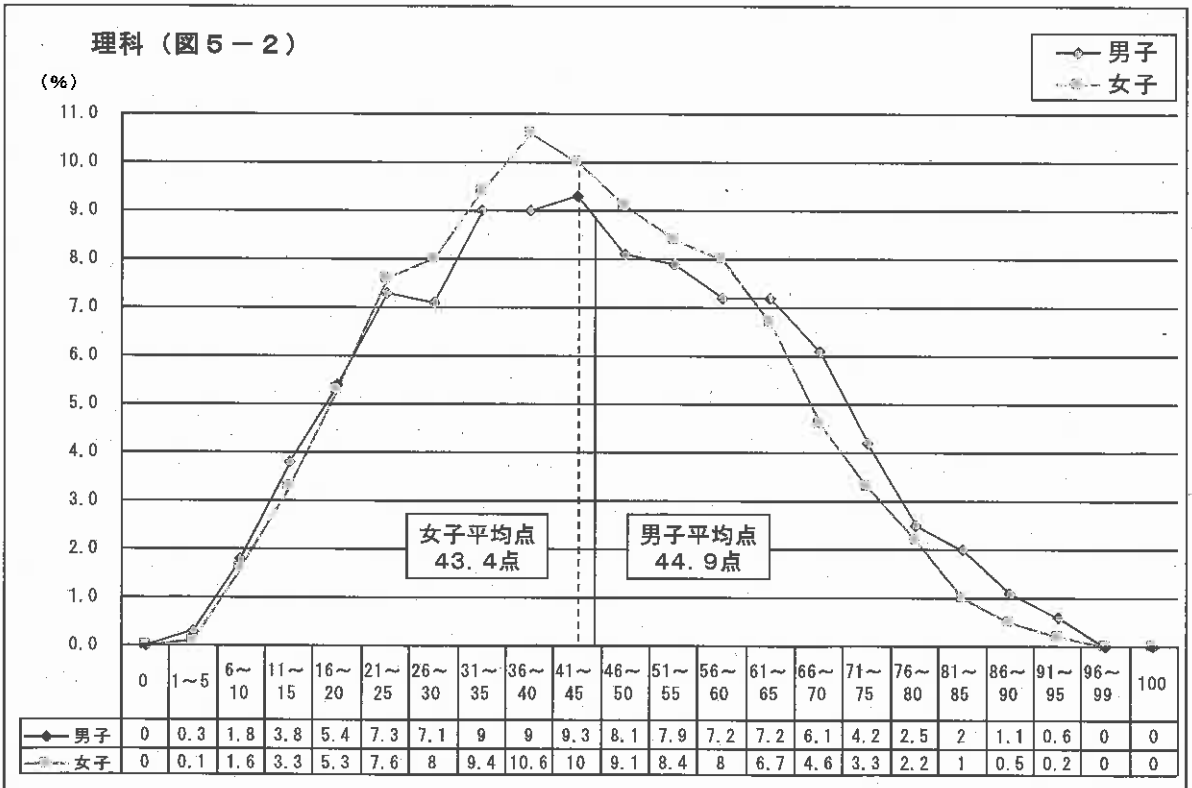
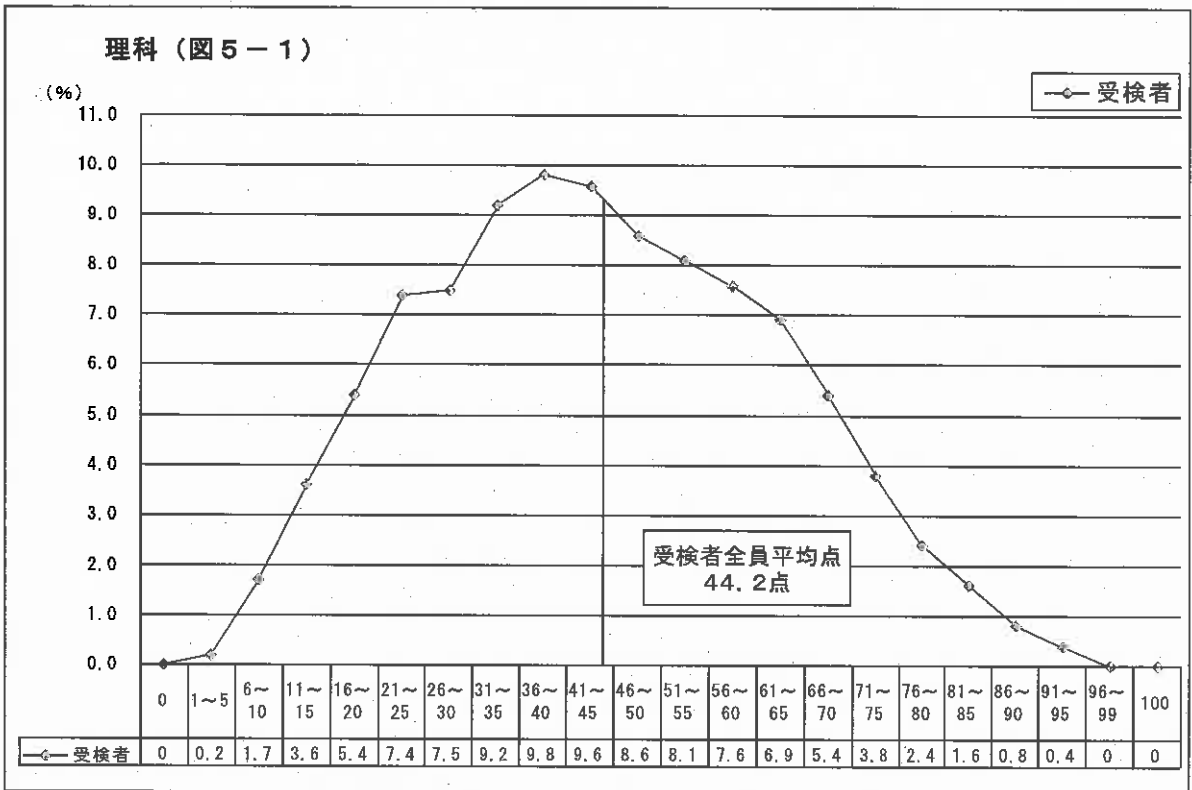


総合得点 (図1-2)



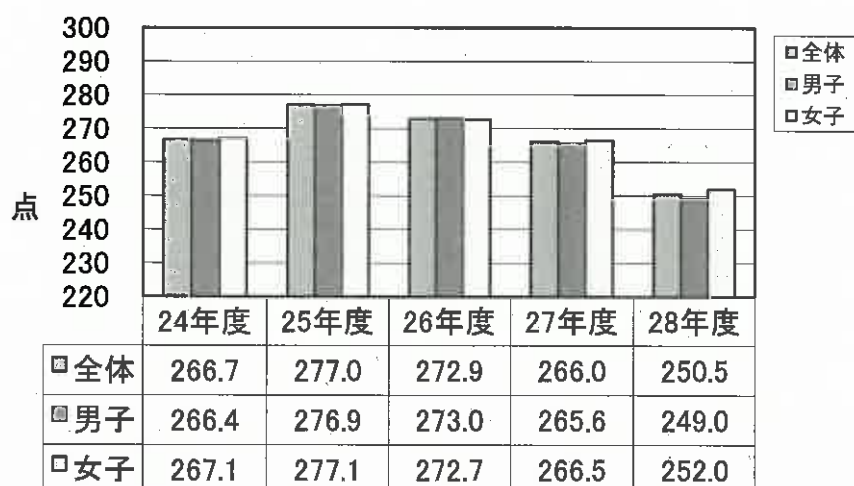




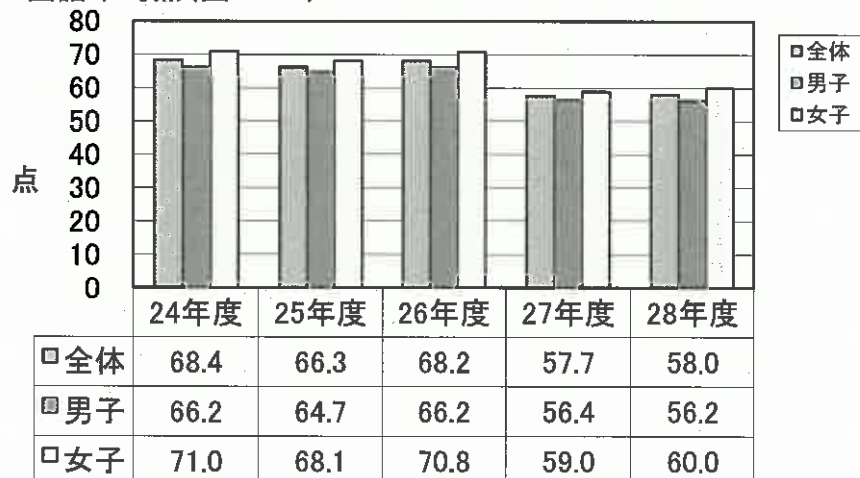


## 平成28年度 学力検査結果

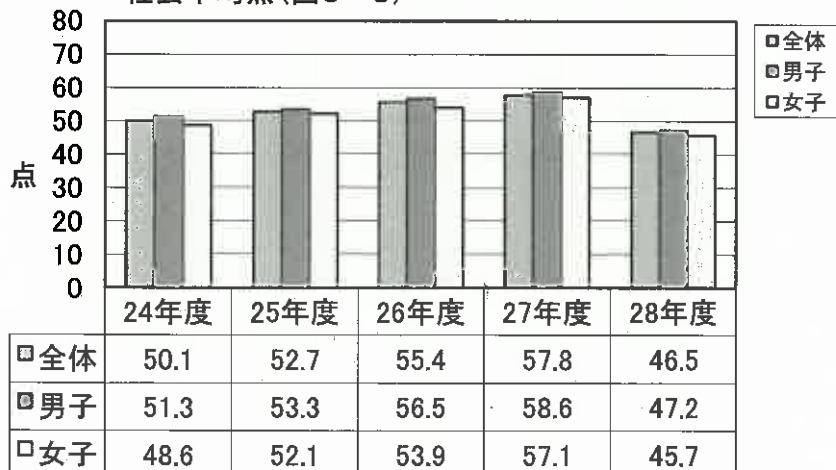
### 総合平均点(図1-3)



### 国語平均点(図2-3)



### 社会平均点(図3-3)



平成28年度 正答率調査表  
【国語】

問題	正答率	誤答率	無答率		
一	一	ア	66.8%	25.1%	8.1%
		イ	86.7%	11.6%	1.7%
		ウ	57.0%	35.2%	7.9%
		エ	77.7%	20.3%	2.0%
		オ	75.8%	19.0%	5.2%
	二	ア	51.7%	41.5%	6.8%
		イ	72.5%	24.2%	3.3%
		ウ	81.0%	16.2%	2.8%
		エ	73.1%	15.1%	11.8%
		オ	76.2%	18.1%	5.7%
三	69.9%	27.1%	3.1%		
二	一	86.2%	13.8%	0.0%	
	二	53.7%	38.4%	7.9%	
	三	38.6%	53.7%	7.6%	
三	一	88.4%	10.5%	1.1%	
	二	71.0%	28.8%	0.2%	
	三A	58.7%	35.8%	5.5%	
	三B	56.1%	36.2%	7.6%	
四	46.9%	42.8%	10.3%		

問題	正答率	誤答率	無答率		
四	一	32.1%	62.7%	5.2%	
	二	62.4%	32.8%	4.8%	
	三	(1)	27.3%	62.2%	10.5%
		(2)	19.0%	61.1%	19.9%
	四	48.7%	50.2%	1.1%	
五	一	71.2%	28.6%	0.2%	
	二	60.5%	37.3%	2.2%	
	三	63.8%	35.6%	0.7%	
	四	(1)	74.0%	17.5%	8.5%
		(2)	34.5%	50.0%	15.5%
	五	76.6%	20.3%	3.1%	
	六	点数	人数の割合	点数	人数の割合
		0	2.8%	8	11.6%
		1	0.2%	9	16.4%
		2	0.9%	10	12.9%
3		1.1%	11	8.5%	
4		1.7%	12	4.4%	
5		5.2%	13	2.2%	
6		13.8%	14	1.5%	
7	16.6%	15	0.2%		
無答(全く記入していない)の割合				0.4%	

【社会】

問題	正答率	誤答率	無答率					
1	(1)	記号	60.7%	39.1%	0.2%			
		内容	2点	23.4%	57.2%	17.5%		
			1点	2.0%				
		(2)	a	62.2%	36.0%	1.7%		
	b		9.6%	89.5%	0.9%			
	(3)	3点	46.9%	41.7%	1.3%			
		2点	9.4%					
		1点	0.7%					
	(4)	37.6%	53.9%	8.5%				
	(5)	27.9%	70.3%	1.7%				
	2	(1)	I	49.6%	44.3%	6.1%		
			II	59.8%	34.3%	5.9%		
			III	94.8%	4.4%	0.9%		
			IV	46.9%	46.5%	6.6%		
(2)		66.4%	33.4%	0.2%				
(3)		20.7%	78.6%	0.7%				
(4)		3点	5.9%	65.9%	24.9%			
		2点	1.5%					
		1点	1.7%					
2		(1)	ア	88.6%	8.7%	2.6%		
	イ		83.6%	15.9%	0.4%			
	(2)	34.3%		65.3%	0.4%			
		語句	2点	77.3%	5.5%	5.0%		
	1点		12.2%					
	影響		2点	53.5%			23.1%	12.9%
	1点	10.5%						
	(4)	39.5%	60.3%	0.2%				
	(5)	3点	17.7%	55.9%	8.7%			
		2点	17.7%					
2	(1)	①	2点	46.5%	42.1%	7.9%		
		1点	3.5%					
		②	X	60.7%			35.4%	3.9%
		Y	76.9%	20.7%			2.4%	
	(2)	40.0%	59.0%	1.1%				
	(3)	2点	66.2%	33.0%	0.4%			
		1点	0.4%					
	(4)	7.0%	92.6%	0.4%				
(5)	14.8%	84.3%	0.9%					

問題	正答率	誤答率	無答率				
3	1	(1)	3点	44.5%	51.1%	1.7%	
		2点	2.6%				
	(2)	1点	0.0%	52.0%	10.0%		
		3点	37.1%				
	2	(1)	2点	60.5%	31.9%	3.3%	
		1点	4.4%				
	3	(1)	56.1%		38.6%	5.2%	
			83.6%				
		(2)	2点	36.7%	45.2%	17.5%	
			1点	0.7%			
(3)	㉠	54.6%	44.8%	0.7%			
	㉡	74.0%					
4	(1)	77.3%	22.5%	0.2%			
	(2)	3点	34.1%	45.9%	10.7%		
2点	9.4%						
5	(1)	49.8%	48.9%	1.3%			
	(2)	3点	22.7%	52.8%	16.4%		
2点	8.1%						
4	1	(1)	2点	29.9%	41.3%	27.9%	
		1点	0.9%				
	(2)	3点	30.1%	67.7%	1.1%		
		2点	1.1%				
	2	2点		58.5%	40.2%	1.1%	
		1点		0.2%			
	3	(1)	3点	48.0%	51.1%	0.7%	
			2点	0.0%			
	(2)	1点	0.2%	48.0%	1.3%		
		50.7%					
4	(1)	3点	33.6%	33.0%	18.3%		
		2点	10.3%				
		1点	4.8%				
	(2)	㉠	77.5%	17.2%	5.2%		
		㉡	80.8%			12.9%	6.3%
		㉢	55.5%				

【英語】

問題	正答率	誤答率	無答率		
1	1	96.3%	3.7%	0.0%	
	2	84.5%	15.5%	0.0%	
	3	73.8%	26.2%	0.0%	
	4	72.9%	27.1%	0.0%	
	5	50.9%	48.9%	0.2%	
2	1	84.3%	15.7%	0.0%	
	2	57.9%	42.1%	0.0%	
	3	76.6%	23.1%	0.2%	
3	A	3点	62.4%	/	/
		2点	18.6%		
		1点	2.6%		
		0点	16.4%		
		0点のうち無答の者の割合→			
	B	3点	21.8%	/	/
		2点	0.0%		
		1点	0.9%		
		0点	77.3%		
	0点のうち無答の者の割合→		3.5%		
	C	3点	34.9%	/	/
		2点	7.4%		
		0点	57.6%		
	0点のうち無答の者の割合→		16.2%		
	D	3点	75.5%	/	/
		2点	1.3%		
0点		23.1%			
0点のうち無答の者の割合→		4.4%			
4	1	①	44.8%	55.2%	0.0%
		②	32.8%	66.4%	0.9%
		③	13.5%	84.7%	1.7%
	2	3点	18.4%	/	/
		2点	16.6%		
		1点	9.0%		
		0点	56.0%		
		0点のうち無答の者の割合→			
	3	Ⓐ	79.5%	20.3%	0.2%
		Ⓑ	55.0%	44.5%	0.4%
		Ⓒ	88.4%	10.7%	0.9%
	4	A	73.8%	22.7%	3.5%
		B	25.5%	63.5%	10.9%
		C	24.9%	65.7%	9.4%
	5	3点	21.0%	/	/
		2点	22.1%		
		1点	13.1%		
		0点	43.9%		
		0点のうち無答の者の割合→			
	6	3点	9.8%	/	/
		2点	14.6%		
1点		27.7%			
0点		47.8%			
0点のうち無答の者の割合→		8.7%			
7	①	30.8%	56.3%	12.9%	
	②	15.5%	63.8%	20.7%	
	③	61.6%	26.2%	12.2%	

問題	正答率	誤答率	無答率		
1	①	81.0%	19.0%	0.0%	
	②	47.8%	50.4%	1.7%	
2	4点	18.8%	/	/	
	2点	40.4%			
	0点	40.8%			
	2点, 0点のうち, 無答が				
	ひとつの者の割合→				2.8%
ふたつの者の割合→		3.5%			
3	8.4%	83.5%	8.0%		
4	32.3%	62.7%	5.0%		
5	A	10.9%	80.3%	8.7%	
	B	14.4%	56.1%	29.5%	
	C	29.0%	41.9%	29.0%	
	D	24.5%	40.2%	35.4%	
5	10点	11.4%	/	/	
	9点	5.0%			
	8点	8.3%			
	7点	5.0%			
	6点	7.6%			
	5点	4.4%			
	4点	5.5%			
	3点	4.6%			
	2点	7.4%			
	1点	3.7%			
	0点	37.1%			
	解答の正誤にかかわらず				
	6文以上書いた者の割合→				9.4%
	5文書いた者の割合→				40.2%
	4文書いた者の割合→				7.0%
3文書いた者の割合→		8.5%			
2文書いた者の割合→		7.6%			
1文書いた者の割合→		9.6%			
無答の者の割合→		17.7%			